



エベレスト

つい最近、80歳の三浦雄一郎さん（プロスキーヤー・冒険家）がエベレストの登頂を果たしたというニュースが伝わったが、たいしたものである。ハワイ、マウナケア山頂のすばる望遠鏡を訪ねる際には、標高4200メートルであっても、高地の薄い空気に時間をかけて身体を慣らしたりする。8850メートルの山頂目指して5270メートルのベースキャンプから登るのは、並大抵のことではないだろう。しかも、ニュースなどで流れた登頂時の映像をみると、天候も抜群で、眺めも最高である。努力する人には天も見方するのか…などと思っていたのだが、よくよく考えてみると、事前に気象条件を十分にモニターしたりして、天候が安定し、吹雪などの危険性の無い「スバリこの日！」という瞬間を選んで登頂したのであろう。山中とはいっても、ベースキャンプではインターネットも使えるし、気象予測技術の向上によって、ピンポイントで登頂の好機を知ることができるのだそう。現に、2012年5月19日には、その日だけでなんと234人もの人が登頂を果たしているのである。ちょっとビックリといった数字である。

以下、おもしろい記事を引用しよう。

＊

パヌルと私は急斜面に固定されたフィックスロープを伝って、のろのろと登っていった。前にも後ろにも見知らぬ登山家がぎっしり並ぶ。前日、第3キャンプにいた登山家はそう多くなかった。だが一夜明けると、おびただしい数の人々が長蛇の列をなし、テントのそ

ばを歩いていた。その光景に私たちは呆然とした。

今や私たちは標高8230メートルの高所で、ほかの登山者と接触しそうな過密状態のただ中にいる。これでは体力や能力と無関係に、全員が同じペースで前進を続けるしかない。真夜中近く、見上げると、一列になったヘッドランプの光が暗黒の空へ続いていた。眼前にそびえる斜面を100人以上がゆっくり登っていく。ある岩場では、ひどく曲がった1本のスノーピケットが氷に打ち込まれ、くたびれたロープを支えている。このロープを頼りに、少なくとも20人が登攀中だ。万が一このピケットが抜けたら、全員が転げ落ちて死ぬだろう。

（同時掲載されている写真の説明）

登山者が渋滞する、2012年5月19日のヒラリー・ステップ。山頂直下にある高さ12メートルのこの岩壁で、登頂の順番を2時間待つこともあるという。それでもこの日234人が登頂。4人の登山者が死亡した。

（National Geographic、2013年6月号より）

＊

この記事は「満員のエベレスト」というタイトルの記事の一部である。ネパール政府の規制がゆるくなって商業登山がさかんになったため、初心者でも登れるようになったのだそう（2012年は977名が挑戦して547名が登頂成功）。おかげでゴミやマナーの問題などが深刻化しているという。山に敬意を表し、自然と共存するためにはどうすべきか、新たな課題が提出されているのである。